

衣服形態により自立度および自立までの期間に差はあるか

1. 研究の対象

2016年11月～2017年8月に美原記念病院に初発の脳卒中で入院し、回復期リハビリ病棟にてリハビリを受けた方

2. 研究目的・方法

回復期リハビリ病棟の役割は、身の回り動作（ADL）の向上、家庭復帰と位置づけられています。また、できるだけその人らしい生活が送れるように、リハビリテーションを実施しています。そこで今回、退院後の生活を見据えて、外出の際などに着ていた衣服の着脱練習を行ない、部屋着と外出着の自立度と期間の差を調査していきます。

これらの研究は、2017年9月から2018年2月の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、疾患、更衣の自立度、機能的自立度評価表 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院
リハビリテーション科 研究責任者 飯野美奈
住 所：群馬県伊勢崎市太田町 366
TEL：0270-24-3355 FAX：0270-24-3359